

調 査 概 要

1. 調査目的

この調査は、区民が区政に対してどのような意見・要望を持っているかを把握し、今後の区政を進めていくうえでの基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査項目

- | | |
|------------|--------------|
| (1) 定住性 | (9) 地域コミュニティ |
| (2) 区政 | (10) 男女共同参画 |
| (3) 職員応対 | (11) 平和資料館 |
| (4) 広報 | (12) 健康づくり |
| (5) 福祉と医療 | (13) 都市デザイン |
| (6) 子育て | (14) 住まい |
| (7) 里親制度 | (15) 交通 |
| (8) 災害時の備え | (16) 就労・起業 |

3. 調査設計

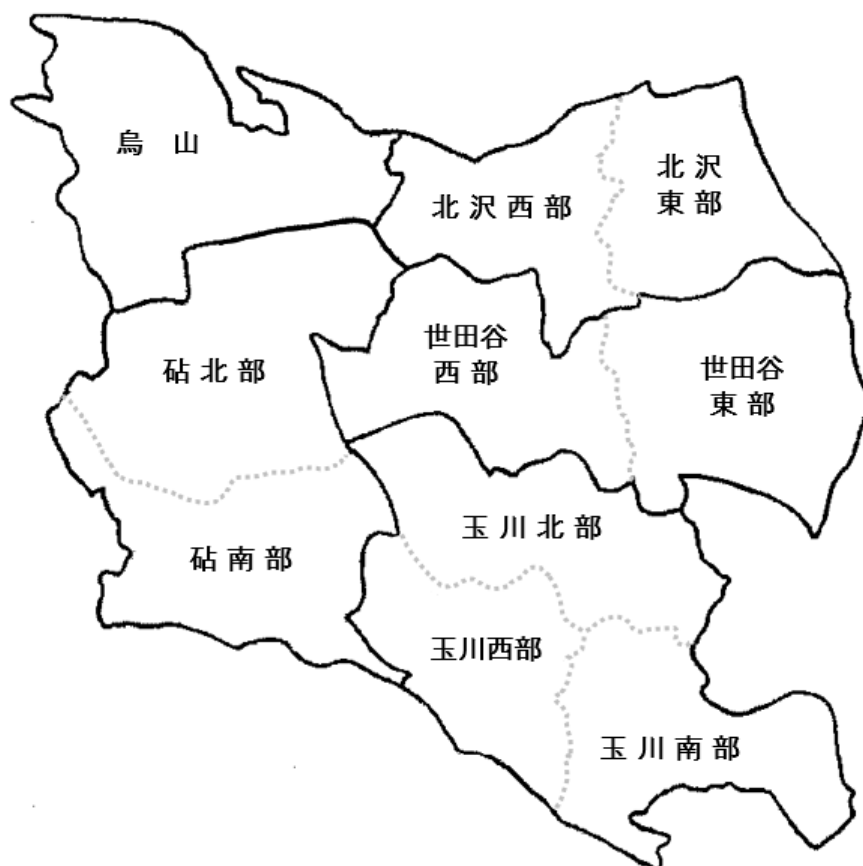
- | | |
|----------|------------------------------------|
| (1) 調査対象 | 世田谷区在住の満 15 歳以上の区民 |
| (2) 対象数 | 5,000 人（内訳／日本国籍 4,821 人、外国籍 179 人） |
| (3) 抽出方法 | 層化無作為抽出法 |
| (4) 調査方法 | 郵送配布・回収またはインターネットによる回答 |
| (5) 調査期間 | 令和 8 年（2026 年）5 月 13 日～6 月 3 日 |
| (6) 調査機関 | 株式会社アダムスコミュニケーション |

4. 標本設計

- | | |
|----------|--------------------|
| (1) 母集団 | 世田谷区在住の満 15 歳以上の区民 |
| (2) 対象数 | 5,000 人 |
| (3) 抽出方法 | 層化無作為抽出法 |

【層 化】

世田谷区内を町丁目単位として、次の10地域に分類しそれぞれを層として計10層とした。



【標本数の配分】

各地域（層）における15歳以上の人口数（令和8年（2026年）4月1日現在）により、5,000の標本数を配分した。

【抽 出】

1 地域ごとに「標本数の配分」にて設定した標本数を無作為抽出した。

地 域 別 町 丁 名 一 覧 表

地域	町丁目	地域	町丁目
世田谷東部	池尻 1～4丁目	玉川南部	奥沢 1～8丁目
	下馬 1～6丁目		東玉川 1～2丁目
	三宿 1～2丁目		玉川田園調布 1～2丁目
	太子堂 1～5丁目		等々力 1～8丁目
	三軒茶屋 1～2丁目		尾山台 1～3丁目
	野沢 1～4丁目		玉堤 1～2丁目
	若林 1～5丁目	玉川西部	中町 1～5丁目
	上馬 1～5丁目		野毛 1～3丁目
	駒沢 1～2丁目		瀬田 1～5丁目
世田谷西部	世田谷 1～4丁目		上野毛 1～4丁目
	弦巻 1～5丁目		玉川 1～4丁目
	宮坂 1～3丁目	砧北部	船橋 1～7丁目
	桜 1～3丁目		千歳台 1～6丁目
	経堂 1～5丁目		祖師谷 1～6丁目
	桜丘 1～5丁目		砧 1～8丁目
北沢東部	北沢 1～5丁目		成城 1～9丁目
	代沢 1～5丁目	砧南部	大蔵 1～6丁目
	大原 1～2丁目		砧公園
	羽根木 1～2丁目		岡本 1～3丁目
	代田 1～6丁目		鎌田 1～4丁目
北沢西部	松原 1～6丁目		喜多見 1～9丁目
	梅丘 1～3丁目		宇奈根 1～3丁目
	豪徳寺 1～2丁目	烏山	八幡山 1～3丁目
	赤堤 1～5丁目		南烏山 1～6丁目
	桜上水 1～5丁目		粕谷 1～4丁目
玉川北部	駒沢公園		北烏山 1～9丁目
	駒沢 3～5丁目		給田 1～5丁目
	新町 1～3丁目		上祖師谷 1～7丁目
	深沢 1～8丁目		上北沢 1～5丁目
	桜新町 1～2丁目		
	用賀 1～4丁目		
	上用賀 1～6丁目		
	玉川台 1～2丁目		

5. 回収結果

(1) 有効回収数 2,477 人 (内訳／日本国籍 2,411 人、外国籍 66 人)

(2) 有効回収率 49.5%

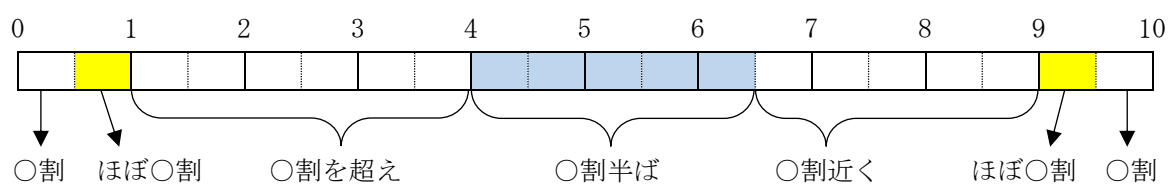
(内訳／郵送回収 1,419 通・57.3%、インターネット回収 1,058 通・42.7%)

回収結果内訳 (人口は令和 8 年 (2026 年) 4 月 1 日現在)

			標本数A	15歳以上の人口数(母集団)	回収数B	回収率 C=B/A
全体			5,000	828,884	2,477	49.5%
地区	世田谷	東部	820	135,988	352	42.9%
		西部	572	94,794	307	53.7%
	北沢	東部	413	68,485	193	46.7%
		西部	440	73,017	225	51.1%
	玉川	北部	465	77,021	240	51.6%
		南部	429	71,197	215	50.1%
		西部	332	55,065	159	47.9%
	砧	北部	613	101,595	312	50.9%
		南部	260	42,988	128	49.2%
	烏山		656	108,734	326	49.7%
	無回答		－	－	20	－
性別×年齢	男性	計	2,363	388,148	1,009	42.7%
		10歳代・20歳代	488	80,697	117	24.0%
		30歳代	362	59,273	120	33.1%
		40歳代	393	66,300	156	39.7%
		50歳代	418	71,055	194	46.4%
		60歳代	304	50,815	172	56.6%
		70歳代	239	36,172	161	67.4%
		80歳以上	159	23,836	89	56.0%
		無回答	－	－	－	－
	女性	計	2,637	440,736	1,399	53.1%
		10歳代・20歳代	463	82,525	127	27.4%
		30歳代	403	65,306	176	43.7%
		40歳代	469	73,062	231	49.3%
		50歳代	449	78,395	273	60.8%
		60歳代	317	53,087	246	77.6%
		70歳代	276	43,495	210	76.1%
		80歳以上	260	44,866	133	51.2%
		無回答	－	－	3	－
	その他		－	－	15	－
	無回答		－	－	54	－

6. この報告書のみかた

- (1) 百分比は回答者数（該当設問においては該当者数）を 100%として算出し、本文及び図表の数字はすべて小数点第2位を四捨五入してある。したがって、比率の合計が必ずしも 100.0%にならない場合がある。同様に、複数の回答の合計値も図表の数字が一致しない場合がある。
- (2) 設問中に特に指示がない限り、回答は1つである。
- (3) 複数回答の設問は、すべての比率の合計が 100.0%を超えることがある。
- (4) 設問に対して無回答があったクロス集計による分析では、各回答者数の合計が全体の回答者数と一致していない。
- (5) 基数が 30 に満たないデータについては参考値とする。
- (6) 数値を考察するにあたり、割合の表現は以下のとおりとしている。



(例：73.5%⇒7割を超え、38.3%⇒4割近く、59.5%⇒6割となる)

7. 標本誤差

下記は標本誤差算出の数式である。

(標本誤差)
$$b = 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団（世田谷区全体）
n=比率算出の基礎（サンプル数）
p=回答比率

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなすことができるので、標準誤差の範囲は、次の

標本誤差早見表のとおり求められる。

標 本 誤 差 早 見 表

回答比率(p) 基数(n)			10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後	
総数			2,477	± 1.2%	± 1.6%	± 1.8%	± 2.0%	± 2.0%
地域	世田谷	東部	352	± 3.2%	± 4.3%	± 4.9%	± 5.2%	± 5.3%
		西部	307	± 3.4%	± 4.6%	± 5.2%	± 5.6%	± 5.7%
	北沢	東部	193	± 4.3%	± 5.8%	± 6.6%	± 7.1%	± 7.2%
		西部	225	± 4.0%	± 5.3%	± 6.1%	± 6.5%	± 6.7%
	玉川	北部	240	± 3.9%	± 5.2%	± 5.9%	± 6.3%	± 6.5%
		南部	215	± 4.1%	± 5.5%	± 6.3%	± 6.7%	± 6.8%
		西部	159	± 4.8%	± 6.3%	± 7.3%	± 7.8%	± 7.9%
	砧	北部	312	± 3.4%	± 4.5%	± 5.2%	± 5.5%	± 5.7%
		南部	128	± 5.3%	± 7.1%	± 8.1%	± 8.7%	± 8.8%
	烏 山		326	± 3.3%	± 4.4%	± 5.1%	± 5.4%	± 5.5%
性別	男 性		1,009	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.1%
	女 性		1,399	± 1.6%	± 2.1%	± 2.5%	± 2.6%	± 2.7%
年代	10・20歳代		248	± 3.8%	± 5.1%	± 5.8%	± 6.2%	± 6.4%
	30歳代		300	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
	40歳代		391	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 5.0%	± 5.1%
	50歳代		470	± 2.8%	± 3.7%	± 4.2%	± 4.5%	± 4.6%
	60歳代		421	± 2.9%	± 3.9%	± 4.5%	± 4.8%	± 4.9%
	70歳代		373	± 3.1%	± 4.1%	± 4.7%	± 5.1%	± 5.2%
	80歳以上		228	± 4.0%	± 5.3%	± 6.1%	± 6.5%	± 6.6%

回答比率(p) 基数(n)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
n = 2,500 の場合	(2,500)	± 1.2%	± 1.6%	± 1.8%	± 2.0%	± 2.0%
n = 2,000 の場合	(2,000)	± 1.3%	± 1.8%	± 2.0%	± 2.2%	± 2.2%
n = 1,500 の場合	(1,500)	± 1.5%	± 2.1%	± 2.4%	± 2.5%	± 2.6%
n = 1,000 の場合	(1,000)	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.2%
n = 800 の場合	(800)	± 2.1%	± 2.8%	± 3.2%	± 3.5%	± 3.5%
n = 600 の場合	(600)	± 2.4%	± 3.3%	± 3.7%	± 4.0%	± 4.1%
n = 400 の場合	(400)	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
n = 200 の場合	(200)	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
n = 100 の場合	(100)	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%

(注) この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答数が 2,477 人であり、その設問の選択肢の回答比率が 40.0%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高で±2.0%である。」

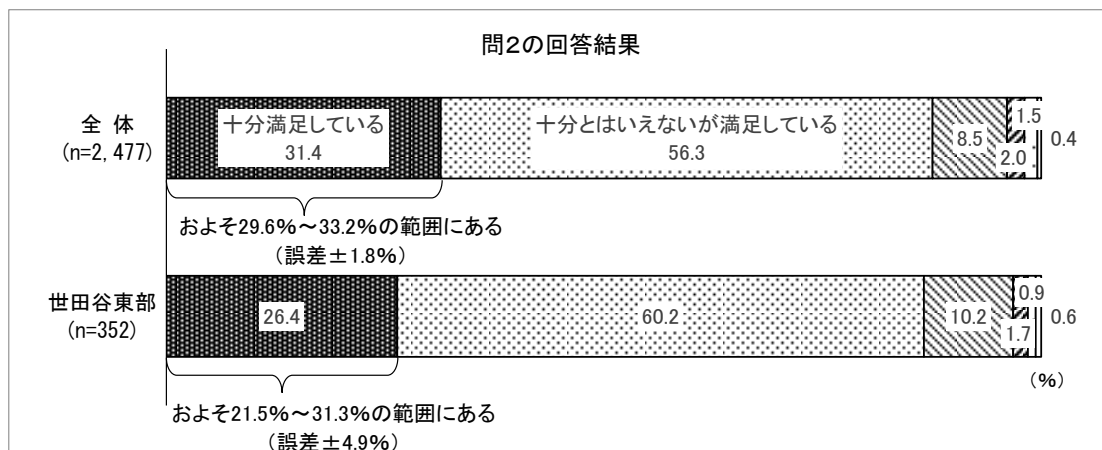
調査結果をみるうえでの留意点

1. 標本誤差について

本調査は、区内在住の15歳以上の区民全員を対象とする全数調査ではなく、一部の区民を無作為に抽出して実施する標本調査である。そのため、調査結果には、母集団全体（15歳以上の区民）を調査した場合の結果との差、すなわち標本誤差が生じる。標本誤差とは、「一部の回答者から得られた割合が、母集団全体の真の割合からどの程度ずれる可能性があるか」を示す統計上の目安である。

例えば、令和8年度（2026年度）調査の有効回収数は2,477人である。問2の「十分満足している」の割合は31.4%であり、標本誤差早見表（p8）の回答比率30%をみると、誤差はおおむね±1.8%であることから、母集団全体における真の割合は、統計上の目安として29.6%～33.2%の範囲にあると考えられる。

また、標本誤差は回答数（n）が少ないほど大きくなるため、問2の世田谷東部の場合、標本誤差はおおむね±4.9%であり、真の割合は21.5%～31.3%の範囲にあると考えられる。



2. 回収結果と人口構成比の差について

本調査の年代別回答者数と母集団の人口構成は完全には一致しない。令和8年（2026年）4月1日時点の人口構成比と比較すると、本調査の回答者は、若い世代の割合が低く、高齢の世代の割合が高くなっている。これは、年代によって回収率に差があるためである（p6 参照）。このため、年代で意見が異なる質問では、実際より高齢の世代の回答の影響が強く反映される点に留意が必要となる。

なお、女性の方が男性より回収率が高いことから、性別でも年代と同様のことがいえる。

